



希望の鐘 *The Bell of Hope*



The Y's Men's Club of Kawagoe

〒350-0046 川越市菅原町7-16

tel : 049-226-2491 fax : 049-226-2304

c/o Kawagoe YMCA、 7-16 Sugawara-cho、 Kawagoe、 Saitama 350-0046 Japan

川越ワイズメンズクラブ会報

No. 16-9

3月号

発行 2015年3月21日

Chartered 1998

会長 吉野 勝三郎

クラブ会長主題 「ワイズとYMCAに連なることの誇りと喜びを持って」

副会長 林 京二

国際会長主題 「Talk less, Do more—言葉より行動を」

松川 厚子

アジア会長主題 「Start Future Now—未来を始めよう、今すぐに」

会計 吉田 公代

東日本区理事主題 「With Pride and Pleasure—誇りと喜びを持って」

書記 森下 千恵子

今月の聖書

3月

だから、いつでも心を引き締め、身を慎んで、イエス・キリストが現れるときに与えられる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。ペテロの手紙 I 1章 13節

Therefore, prepare your minds for action; be self-controlled; set your hope fully on the grace to be given you when Jesus Christ is revealed. 1 Peter 1:13

2015年2月の統計 (2月28日)

在籍 11名 出席者 6名 出席率 55%

3月例会予告

日時：3月28日 (土) 午後4:00～

会場：埼玉 YMCA 川越センター

卓話者：松川 正明先生 医学博士

卓話：題 未定

松川 厚子さんのご主人がお話ししてくれます。

※インビテーション・キャンペーンとしてぜひ友人、知人も誘ってください。

2月例会報告

山本剛史郎

2月28日 (土) 午後4時から、埼玉 YMCA 川越センターで例会が行われました。参加者は (敬称略) 吉野、利根川、山崎、松川、吉田、山本でした。

ゲストスピーカーとして二子石章夫妻を迎えましたが、二子石さんは埼玉 YMCA の元総主事であり、NPO 法人 CFF (Caring for the Future

Foundation Japan) の設立者で、青少年育成としてフィリピン・ワーク・キャンプなどを長年、行ってきました。その二子石さんに埼玉 YMCA でフィリピン・ワーク・キャンプを行うことになったこと、その後の活動について話してもらいました。

まず、様々な団体が段々と力を失っていく現実について、その団体・組織が何のためにあるのか存在意義や目的を失っていつているという。組織の存続を第一にして、その組織の目的を忘れてしまえば意味がない。それは YMCA も同じことで、YMCA が何のために存在するのかを第一に考えなくてはならない。二子石さんが YMCA に勤めていた時、青少年のつっぱり、それをどうにかしたいと考えて発展途上国に連れていき、そこで何かしら経験させることを考えたという。しかし、その当時、まずお金がない、どこに行ったらよいのかなど五里霧中の状態だった。お金に関してはその支援募金を呼びかけ、約300万円を集めた。そしてキャンプ候補地としてあちらこちらに手紙を出したが、フィリピンだけ返事が来て、そこに決めたという。

フィリピン・ワーク・キャンプをはじめ、アラゴン神父にお世話になりタラ村というハンセン病の施設のある村でキャンプをすることになった。そこでモンチという現地のホーリー・ロザリー・カレッジの先生をしている人がおり、そこで行われたセミナーが素晴らしいものであった。そのこともあり、その後しばらくはタラ村にてキャンプを続けることになる。また、最初はフィリピンにおける日本人のイメージが戦時中やってきた日本兵のイメージが強く残っており、最初は日本人を嫌っている人も多くいた。そのため護衛のための兵士もいたという。しかし、そのような状態の中、市長を訪問すると、市長が「(キャンプを始めた頃) 40年前、日本の軍隊が様々な武器を持ってやってきた。しかし今

は鍬とスコップを持ってやってきた。今は平和のために日本人がやってきたんだ。」と話した。その話に多くの日本人キャンパーが感動して、また変わっていった。それは日本に帰ってきてから報告会を行って実感した。そして、最初はいわゆるつつぱりの青少年を対象としていたキャンプが高校生・大学生などを対象として行い、埼玉 YMCA フィリピン・ワーク・キャンプは現在にまで至る。

その後、埼玉 YMCA を離れてから CFF (Caring for the Future Foundation Japan) の活動を行っていく。CFF では最初フィリピンの親を亡くした子供たち 5~12 歳を受け入れていた。現在、フィリピン、マレーシア、日本において活動しており、今でも多くの青少年がそれらの国で行われているキャンプに参加している。二子石さんはそのために 12 年間、フィリピンに住んでいて、フィリピンの様々な事情が分かってきたという。その話も面白かったのだが、今回の報告では割愛させてもらう。

最後に YMCA のマークについて話された。

YMCA のマークは逆三角形だが、その逆三角形は YMCA の組織を表しているという。それは、一番上は一般会員であり、理事長が一番下であることを意味している。通常の組織では理事長が一番上であるが、YMCA は逆三角形で理事長が一番下であるのが理想だという。



川越クラブの 2015~2016 年度の体制、および 2016~2017 年度について話し合われた。確認事項も含めて次の通り。

2015~2016 年度

会長：吉野勝三郎

関東東部国際・交流主査：森下千恵子

2016~2017 年度

東日本区理事：利根川恵子

東日本区書記：山本剛史郎

東日本区会計：吉田公代

2017 年の東日本区大会のホストクラブとして立候補するが、その際の場所、立候補の書類の確認が行われた。

2015年3月13日

第20回東日本区大会ホストクラブ立候補届

東日本区理事 田中 博之 様

2017年6月開催の東日本区大会ホストクラブとして立候補いたします。

記

開催日時 2017年6月3日(土)~4日(日)
大会会場(予定) 川越プリンスホテル
宿泊場所(予定) 川越プリンスホテル、川越東武ホテル、川越第一ホテル
ほか

立候補クラブ名 関東東部 川越ワイズメンズクラブ

会長署名 吉野勝三郎

2014-2015 年度次期クラブ会長・部役員研修会参加報告

利根川 恵子

去る 3 月 7 日 (土) ~ 8 日 (日) の 2 日間にわたり、「次期クラブ会長・部役員研修会」が、95 名の出席者をもって、東山荘で開催されました。私は東日本区役員として出席したのですが、来年は次期理事として研修を計画し実施する立場になることを覚え、緊張しながらの参加となりました。

研修は 2 日間で、パート I から VI まであり、I は東日本区の現況、YMCA 理解、次期理事方針説明、II は基調講演、III は事業主任活動方針説明で土曜日は終了。翌日、2 日目には、IV として国際・アジアエリアの現況、部事業主査、部書記・会計の役割、事務手続きのポイント、会計についてと続き、次期会長グループと次期事業主任・事業主査グループに分かれてそれぞれの役割についての研修となりました。最後に IT 利用による情報伝達 (V)、ワイズクイズ解説 (VI) から閉会式となり、中身の濃い、充実した研修が修了しました。

特に印象深かったのは、元日本区理事・岡本尚男ワイズ (京都キャピタルクラブ) による、「ワイズのリーダーシップに期待するもの」と題した基調講演です。岡本ワイズは開ロ一番、ワイズは例会が命、クラブの存続は例会にかかっているとお話になり、国際聖句を引用し、ワイズの原点は「世のため人のために働く人となること」、そのような人材を育てること、と諭されました。そのために例会がクラブ員の親睦を醸成し、立派な人材を育成する場となるよう充実させることが必要として、クラブ運営の原則 20 カ条も披露なさいました。時間を厳守する、次回も来たい、友人や知人も誘って来たいと思われるような場所とする、等々、どの条項もなるほどと思わされるもので、ワイズの原点を厳しく教えていただきました。次回の例会で資料を回覧いたしますので、メンバーのみなさんには是非

お目を通してくださるようお願いいたします。

さらに渡辺次期理事の活動方針では、部の強化・活性化が盛り込まれ、今までクラブから直接東日本区に送っていた報告や送金がすべて部経由となります。事業主体を部とクラブとする、部に権限を委譲し経費を節減する、部長、部事業主査の役割を強化する、を基本方針として、部やクラブの活性化を図ろうとするものです。いずれ詳しく伝達がありますので御理解と御協力をお願いいたします。

2日間、多くのワイズとの交流を楽しみながら、知識、情報、情熱も得られた貴重な研修でした。

(余談)

これまで、高速バスの停留所から東山荘へ向かう途中にある、キャシー中島さんのキルト・ミュージアムに拠ってみたいと思っていたのですが、いつもタクシーに乗ってしまうため、素通りしていました。今回初めて、同じバスになった衣笠ワイズ(埼玉クラブ次期会長)、大澤ワイズ(所沢クラブ次期会長)に引っ張られて、歩くことになり、念願叶い、キルト・ミュージアムに立ち寄ることができました。時間の関係でミュージアム自体は見学しませんでした。カフェでお茶をいただき、キルト・ショップで手作りキルト・コースターの材料を買いました。まだ作成開始には至っていませんが、いずれキルトを楽しんでみたいと思います。完成の暁にはご披露いたします！



参加者全員での記念撮影



衣笠さん、大澤さんとキルト・ミュージアムのカフェで
[那須クラブ設立 20 周年記念感謝例会に参加し](#)
[て](#)

吉田公代

少し暖かくなったかな~と思う 3月14日那須クラブ設立 20 周年記念感謝例会が行われる会場、アジア学園に行ってきました。

アジア学園は、那須塩原駅から、車で 10 分位のところで、広大な敷地を持っている木造建築の建物です。

記念礼拝と記念講演は敷地内にある、日本式の木造チャペルで木の香りと床暖房のぬくもり、ピアノの和らかな音とともに、心地よいオイコスチャペルで行われました。

記念講演はアジア学院の理事長大津健一氏の「アジア学院の目指すもの-共に生きるために-」の演題で行われました。

毎年アジア、アフリカから約 30 名の学生 (participants) を招き、9 ヶ月のトレーニングコースを終了の後、それぞれの国へ帰り農村リーダーとしての働きを期待する。

現在 1,304 名の卒業生世界 56 各国に存在しているとのことであります。

アジア、アフリカが抱える主要な問題は貧困、食糧、紛争、災害であり、平和に暮らすことの当り前のこと、人々が笑いながら、家族と共に三度の食事ができることである。

アジア学院は人々に寄り添って行うリーダーの育成、人々と共に有機農業、農村開発に汗を流すリーダーを育成することだと、熱弁されていました。また、私たちの使命は、次世代の人々のことを考える視点を持って生きるあり方が問われているとのメッセージを残されていました。

会場をコイノニアハウスへ移動して、ティーパーティが行われ学園で収穫された、赤飯、漬物、焼き豚、ケーキ、チャイティなどがふるまわれ、美味しく、楽しい、和気あいあいのパーティになりました。

東京目黒クラブとの DBC 締結も無事行われました。

那須クラブメンバー 5 名ですべて行ったそうで、もちろん、ユースリーダーやたくさんの協力があつたと思いますが、素晴らしい 20 周年記念感謝際になりました。

那須クラブとアジア学院の絆の深さ歴史を深く感じ、メンバーの若い、熱い、情熱を感じることができました。

また、自分がワイズメンズクラブでどうすべきなのか？考えるひと時を与えて下さる、貴重な一日でした。

川越クラブは、3 年後 20 周年を迎えます。さあ~、どのように、皆様をお迎えいたしましょうか？乞うご期待です。





YMCA 報告

【報告】

- 2/26(木) 聖書研究会 参加者 5 名
 3/15(日) トースター3 月活動「ボウリングにチャレンジ」
 場所：ユニクスボウル南古谷

【予定】

- 3/19(木) 聖書研究会
 3/21-22 クローバー&グリーン 春の宿泊キャンプ
 3/28(土) クローバークラブ 特別プログラム①
 3/30(月) クローバークラブ 特別プログラム②
 4/2(木) クローバークラブ 特別プログラム③
 4/3(金) クローバークラブ 特別プログラム④

先日、中学 2 年生まで YMCA の特別支援クラスに在籍していたお子さんが、お母様と一緒に来館されました。街の中ですれ違っていたら気づかなかったであろうほど、4 月には高校 2 年生になる彼は身長も高くなり、表情も大人っぽくなっていました。YMCA に通い始めた頃は、自分に自信がなくいつもオドオドし周りの目を気にしている子であったのに、驚くほどの変化でした。もちろん今でもしんどい事はあるようですが、前向きにがんばっているとのこと。10 分足らずの立ち話だけでしたが、お母様の目には終始涙がにじんでおり、私たちの心の中にはぐっとくるような熱いものがこみ上げてきました。

現在、特別支援プログラムに在籍している子ども達は、3 センターで 150 名を超えております。YMCA での活動を通して様々なスキルを学び、多くの人との出逢いを通して自信を高め、それぞれの道に力強く歩んでほしいと願っております。

太田 聡

= 編集後記 =

編集後記として、「菜虫化蝶(なむしちょうとなる)」という言葉を用意していましたが、実際にはもたもたしているうちに、本日は春分を迎えました。

関西ではお水取りが終わると、こちらではお彼岸が過ぎるといよいよ春の到来という感じでしょうか。

天文学的には、春分から夏至の前日までが「春」となるようです。

桜の木を眺めていると、今にも蕾が開きそうです。花見の予定はまだありませんが桜の季節が楽しみです。